

# 大阪日々新聞

二百七十八号



報辺某の妻でち一人連れて住吉詣でんと

時とて夜明けに賊

とて女をさらうとする

とちかされてそくけ中ふ

ひそむ女悲泣すれども

外今女をさらうとする

とてつとくへも行かなくお

いとされて下帯がけ恵と

久のまゝ直内うらま

引すて一車の

ゆらゆらするゆ

女是を得て去

処へ又一人ぞ来る

今女をさらうとする

あゝ一車と云はるるりや光圓を

ぬい込置り衣を奪ふも金を失ふ

と有婦人と追ふんと二人のそくけを進行せよ

とちの車の内の衣ふくをさらうと小豆さかおひ

飛が如く家へ取り主のつかかるとせよ

両賊の云一車を以てかかのやちうを見ま

そくけと光田の金札あり夜の明るを

まらして謝へかねがでららの計い神妙

なりとて賊金いでちら賜りなる

頃戌二月五日之トゾ

柳櫻記



女啓

川傳 彫福

版元池田傳兵衛